

地図で見る、調べる那覇

日程：2023年11月25日(土)・26日(日)



那覇市歴史博物館 見学会

25日(土) 10:00 集合場所：那覇市歴史博物館 入口

11:30 まで 那覇市歴史博物館 常設・特別展示

(琉球王家の国宝常設展示、楚南家文書展、針図と関係文書の特別展示見学)

*アクセス：モノレール「県庁前」下車2分 デパートリンボウ4F

〒900-8503 沖縄県那覇市久茂地1丁目1-1

*博物館入館料・資料代1,000円が必要(学生無料)

公開研究会

25日(土) 13:30より17:30まで 講演会

会場：沖縄県立芸術大学 当蔵キャンパス

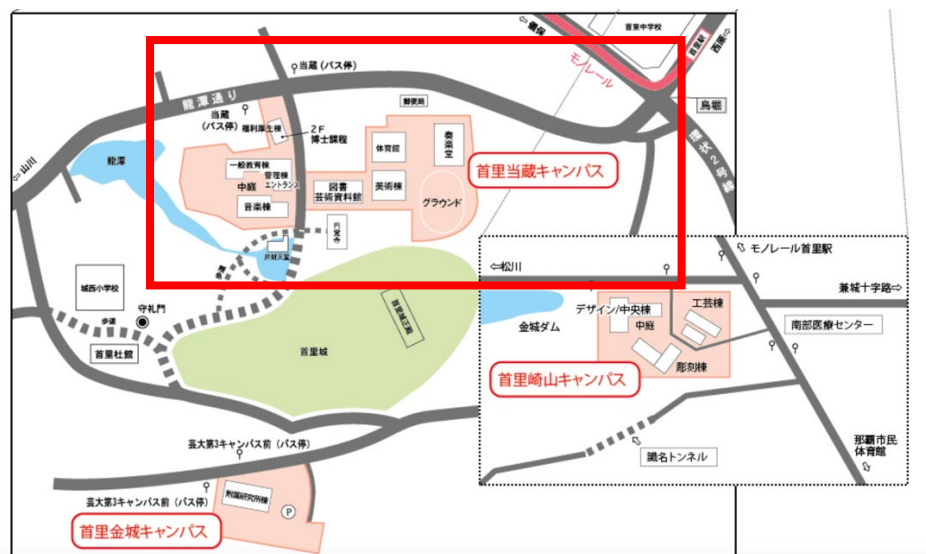
一般教育棟3階 講義室

*アクセス：バス 当蔵(首里公民館向け)下車1分

〒903-0812 沖縄県那覇市首里当蔵町1-4

- ① 那覇の変遷(外間 政明氏)
- ② 楚南家文書の針図からみた近世佐敷の土地開発(安里 進：評議員)
- ③ 地形図でたどる沖縄県の変貌(今尾 恵介：評議員)
- ④ 所見・コメント(ビデオ・リモート参加)(鈴木 純子：名誉会員)

* 参加費無料、事前登録不要 講演資料の必要な方は資料代(1,000円)が必要



巡 検（現地見学）

26日（日） 10:00 集合 パレット久茂地前（モノレール県庁前駅）

参加数によりタクシー/貸切ミニバスを利用

パレット久茂地前（モノレール県庁前駅）集合

案内者：安里 進（沖縄県立芸術大学名誉教授）ほか

参加費：実費（3,500円程度）が必要

巡検ルート：

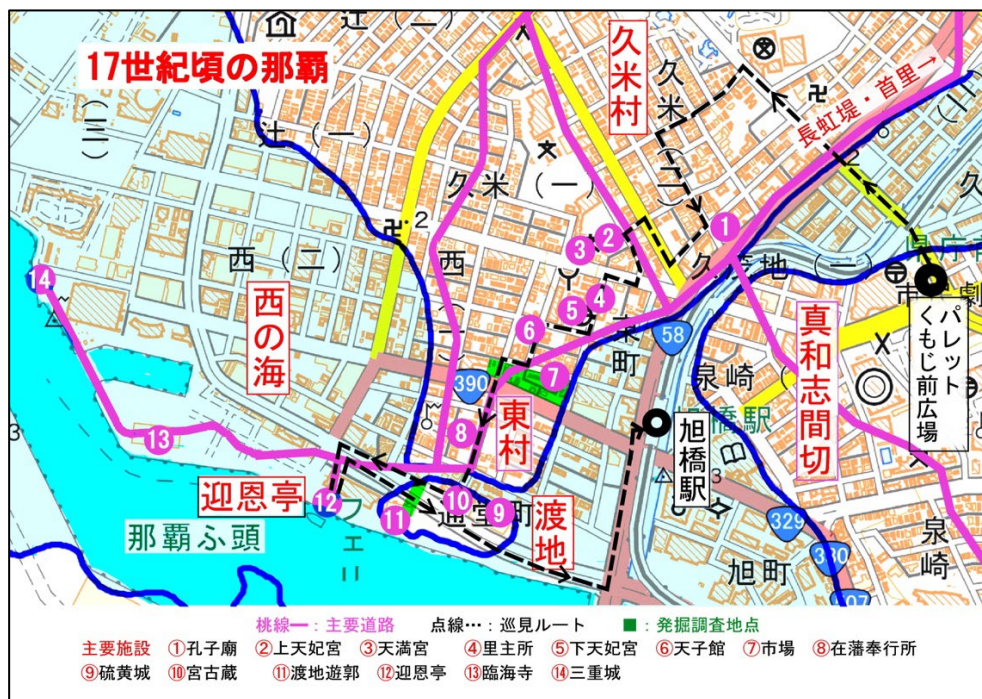
パレット久茂地前（モノレール県庁前駅）集合 10:00 → 市内巡見（午前中） → 午後 旭橋駅 → 前田駅 → タクシー・ミニバス → 浦添大公園内印部石見学・併せて 浦添グスク・ようどれ館見学
古写真や発掘調査成果のパネル、出土遺物などから、浦添グスクと浦添ようどれの歴史が分かりやすく学べます。

実物大で再現された浦添ようどれの西室（英祖王陵）は必見！

浦添グスク・ようどれ館：浦添市仲間二丁目 53-1

到着組はようどれ館を見学後は印部石見学。時間があれば、ようどれ見学。

17:00 に那覇空港にて解散（旭橋駅：17:30頃 解散）



26日の巡見資料 添付図（午前中）



研究会 登壇者：プロフィール

鈴木 純子（日本地図学会名誉会員）

お茶の水女子大学卒業。文部省図書館職員養成所修了後、国立国会図書館勤務、主として地図資料を担当、1999 年定年退職（専門資料部特別資料課長）、相模女子大学講師（非常勤）、日本国際協力センター（非常勤）伊能忠敬研究会代表理事・(財)地図情報センター監事・日本地図学会評議員・東京大学史料編纂所画像史料解析センター共同研究員。

安里 進（日本地図学会評議員）

沖縄県出身の考古学者・歴史学者。専攻は考古学・琉球史。沖縄県立芸術大学名誉教授。1947 年旧首里市生まれ。76 歳。琉球大学卒業後、民間会社勤務をへて 32 歳で大阪府教育委員会文化財保護課に就職。41 歳で浦添市教育委員会に転職。2003 年から同文化部長。2006 年 9 月退職。10 月から沖縄県立芸術大学教授、2013 年退職。同年より沖縄県立博物館・美術館館長（～2016 年）を務めた。

外間 政明

1967 年生まれ。那覇市歴史博物館（那覇市市民文化部文化財課）主幹。専門は琉球史（近世・近代）。おもな論文に、「尚家継承古文書の既存目録と評定所文書」（那覇市市民文化部歴史資料室編『尚家関係資料総合調査報告書』I 所収、2003 年）。共著に、琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料研究会編『琉球船と首里・那覇を描いた絵画史料の研究』（思文閣出版、2019 年）などがある。

今尾 恵介（日本地図学会 評議員）

1959 年横浜市生まれ。地図研究家、エッセイスト、出版社勤務を経てフリーライター。一般財団法人日本地図センター客員研究員。日本地図学会評議員。「地図と地名」専門部会主査。神奈川県横浜市出身。小中学時代より地形図と時刻表を愛好、著書に『鉄道でゆく凸凹地形の旅』（朝日新書）、『絶景鉄道 地図の旅』（集英社新書）、『住所と地名の大研究』（新潮選書）、『地名の社会学』（角川選書）、『鉄道ひとり旅入門』（ちくまプリマー新書）など多数。『日本鉄道旅行地図帳』（新潮社）シリーズの監修者。

以上

問い合わせ先：日本地図学会 常任委員

企画・集会委員長 太田 弘 (mapota@keio.jp)

携帯：080-3343-4565